

(3) 研究教育指導

本大学院経営情報学研究科経営情報学専攻の授業科目は、大学院生の研究領域を示す経営管理、経済・会計、経営科学、情報処理、情報理論の5系列の授業科目群と経営情報系列（選択必修科目群）から構成されている。

大学院生は、入学時に行うガイダンスで授業計画や履修方法を理解すると同時に、入学時に提出した研究計画書に基づき担当指導教授が指名され、指導教授のガイダンスを受け、指示された授業科目を履修する。同時に1年次から、指導教授のもとで研究指導を受け、選択した系列に関する関連授業科目を履修して幅広い理解を得た上で、2年次においては、指導教授のもとできめ細かい研究指導を受けて修士論文の執筆を行う。

また、全大学院生に対し学生専用研究室に専用の机を設け、今日なお劇的な発展、進歩を続ける情報技術に対応するため、インターネット及び学内ホストコンピュータとネットワークを組む高性能パソコンなどを整備して、大学院生用としては高水準の研究教育環境を整備維持している。

(4) 学位の授与

a 学位論文審査の方針、方法、体制

修士課程に2年以上在籍し、大学院学則に定める所定の授業科目について32単位以上を修得し、かつ指導教授の演習指導のもとで修士論文を提出した大学院生に対して審査を行う。

大学院生は、全大学院指導教員に対し、修士論文の要旨を報告するとともに、主査である指導教授、副査教授2名による論文審査を受け、その後、大学院研究科委員会の審議を経て、学位の授与が決定される。

b 学位の授与状況

修士（経営情報学）の学位の授与状況は以下のとおりであり、この数は各年度の2年次の在籍学生数とほぼ一致する。（平成8年度・9年度は該当しない）

完成年度以降現在まで、各系列の在籍生は2年間の研究活動の成果を十分あげて、順調に学位を取得している。

(単位：人)

経営情報学専攻 (修士課程)	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	計
経営管理系列	1(0)	2(1)	5(3)	3(1)	2(1)	13(6)
経済・会計系列	2(0)	2(0)	5(0)	7(0)	6(0)	22(0)
経営科学系列	0	1(0)	0	0	4(1)	5(1)
情報処理系列	0	0	5(2)	0	1(0)	6(2)
情報理論系列	2(0)	1(0)	1(0)	1(0)	1(0)	6(0)
計	5(0)	6(1)	16(5)	11(1)	14(2)	52(9)

(注) 1 経営情報学研究科の開設は平成4年度。（完成年度：平成5年度）

2 () は外国人留学生で内数。

(5) 学生生活への配慮

a 奨学生制度

本大学院には、人物、学業ともに優秀な学生に対し、経済援助を行うことにより、学術研究の奨励と有為な人材育成に資することを目的とした大学院奨学生制度がある。

大学院奨学生には、第一種奨学生と第二種奨学生とがあり、概略は次のとおりである。なお、平成10年度の実績は、第一種奨学生4人、第二種奨学生10人である。

(1) 第一種奨学生

- 1) 大学院在籍者（修士課程）を対象とし、選考する。
 - 2) 奨学金の金額は、授業料及び演習費の2分の1相当額を免除することによって支給する。
 - 3) 奨学金の支給期間は、修士課程の2年間とする。
 - 4) 奨学生の採用者数は、若干名とする。
- (2) 第二種奨学生
- 1) 東京情報大学卒業生、または東京情報大学に3年以上在学して所定の単位を優れた成績で修得した者であって、大学院に入学した者を対象とする。
 - 2) 奨学金の金額は、入学時に入学金の全額相当額を免除することによって支給する。
 - 3) 奨学生の採用者数は、該当者全員とする。
- (3) 奨学金の返還
- 第一種及び第二種奨学生の奨学金は、特別の場合を除き返還の義務はない。

b アシスタントシップ制

学部授業科目でコンピュータ演習などの演習科目については、教員1名で演習を全学生に効果的に指導することは困難であるので、演習科目について大学院生のティーチング・アシスタント（TA）制を採用している。当該コンピュータ科目に関する知識、技術と経験を有する学生をティーチング・アシスタントに選抜している。

ティーチング・アシスタント制は、学部学生の教育効果のレベルアップと同時に大学院生に教育指導経験を持たせ、また奨学金に代わる手当支給の効果がある。